

# Asia Indicators

発表日: 2023 年 12 月 22 日(金)

## 台湾の輸出受注は再び一進一退の様相 (Asia Weekly(12/18~12/22))

～中国向けが底打ちも、米国向けや日本向けは頭打ち、アジア新興国向けが足を引っ張る動きも～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (Tel: 050-5474-7495)

### ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
12/18(月)	(シンガポール) 11 月非石油輸出(前年比)	+1.0%	+2.3%	▲3.5%
12/19(火)	(ニュージーランド) 11 月輸出(億 NZドル)	59.9	--	53.7
	11 月輸入(億 NZドル)	72.3	--	71.0
	(マレーシア) 11 月輸出(前年比)	▲5.9%	▲5.2%	▲4.5%
	11 月輸入(前年比)	+1.7%	▲0.8%	▲0.3%
	(香港) 11 月失業率(季調済)	2.9%	--	2.9%
12/20(水)	(台湾) 11 月輸出受注(前年比)	+1.0%	+4.3%	▲4.6%
12/21(木)	(インドネシア) 金融政策委員会(7 日間リバースレポ金利)	6.00%	6.00%	6.00%
	(香港) 11 月消費者物価(前年比)	+2.6%	--	+2.7%
12/22(金)	(マレーシア) 11 月消費者物価(前年比)	+1.5%	+1.7%	+1.8%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### [台湾]～底打ちの兆しがみられた受注は再び一進一退、主力の電子部品関連での下振れが重石となる展開～

20 日に発表された 11 月の輸出受注額は前年同月比+1.0%となり、前月(同▲4.6%)から 15 ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。ただし、前月比は▲5.36%と前月(同+5.31%)から 2 ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているほか、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。財別では、化学関連や金属関連など素材、部材関連のほか、縫製品関連の受注に底堅い動きがみられるものの、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連などに下押し圧力が掛かっていることが受注全体の重石となっている。国・地域別では、中国本土向けや欧州向けに底打ちする動きがみられるものの、米国向けや日本向けが頭打ちしているほか、ASEANをはじめとするアジア新興国向けが下振れしていることが全体の足かせとなっている。

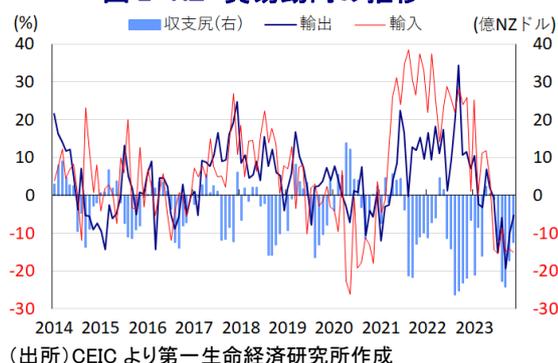
図1 TW 輸出受注の推移



### [ニュージーランド]～中国向けをはじめ様々な国・地域向けの輸出に底打ちの一方、輸入も堅調な推移が続く～

19日に発表された11月の輸出額は前年同月比▲5.3%と6ヶ月連続で前年を下回る推移となるも、前月(同▲9.8%)からマイナス幅は縮小している。前月比も+4.5%と前月(同▲2.1%)から3ヶ月ぶりの拡大に転じるなど底打ちの動きが確認される一方、中期的な基調は減少傾向で推移するなど依然として力強さを欠く動きが続いている。財別では、主力の輸出財である乳製品関連や食肉関連のほか、木材関連など幅広い分野で輸出が拡大する動きが確認されている。国・地域別でも、日本向けに頭打ちする動きがみられるものの、最大の輸出相手である中国向けが底入れの動きを強めているほか、隣国の豪州向け、ASEAN向け、米国や欧州向けなど幅広い地域向けで堅調な動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比▲15.1%と6ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月(同▲14.1%)からマイナス幅も拡大している。前月比は+4.1%と前月(同▲4.9%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているほか、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている。財別でも、機械製品関連や縫製品関連の輸入に下押し圧力が掛かる動きがみられるものの、原油や石油製品関連の輸入が大きく上振れしたことが輸入全体を押し上げている。結果、貿易収支は▲12.34億NZドルと6ヶ月連続の赤字で推移するとともに、前月(▲17.30億NZドル)から赤字幅が拡大している。

図2 NZ 貿易動向の推移

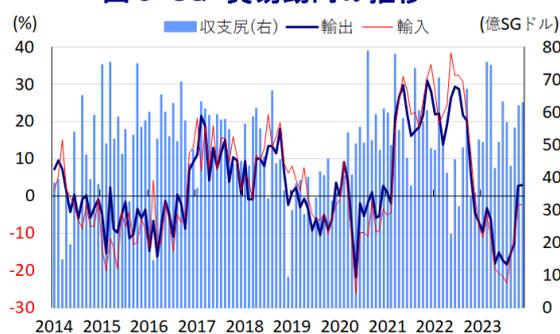


### [シンガポール]～輸出入ともに底入れの動きに一服感も、中期的な基調はともに拡大傾向が続くなど底堅い～

18日に発表された11月の非石油輸出額は前年同月比+1.0%となり、前月(同▲3.5%)から14ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も+0.26%と前月(同+5.67%)から3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている様子がうかがえる。財別

では、主力の輸出財である電動バルブ関連の輸出に下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、半導体をはじめとする電子部品関連の輸出は堅調な推移をみせているほか、化学製品関連の輸出も同様に堅調に推移するなど幅広い分野で底入れの動きが確認されている。なお、原油関連を併せた総輸出額は前年同月比+2.8%と前月（同+2.8%）と同じ伸びで推移するなど2ヶ月連続で前年を上回る伸びとなっている。ただし、前月比は▲4.0%と前月（同+6.3%）から3ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。国際原油価格の調整の動きが原油関連の輸出額の重石になっている。一方の輸入額は前年同月比▲2.5%と13ヶ月連続で前年を下回る伸びが続いており、前月（同▲2.3%）からわずかにマイナス幅が拡大している。前月比も▲4.0%と前月（同+4.1%）から6ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。輸出の堅調さを反映して機械製品関連を中心に輸入も堅調な推移をみせる一方、国際商品市況の調整の動きが輸入の重石となる動きもみられる。結果、貿易収支は+62.79億SGドルと前月（+61.94億SGドル）からわずかに黒字幅が拡大している。

図3 SG 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [マレーシア]～輸出入ともに底入れの動きが続くなか、生活必需品を中心にインフレ圧力が後退する展開～

19日に発表された11月の輸出額は前年同月比▲5.9%と9ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月（同▲4.5%）からマイナス幅は拡大している。前月比も+2.0%と前月（同+1.6%）から5ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や機械製品関連の輸出は力強さを欠く推移が続いているほか、パーム油をはじめとする農業関連の輸出も勢いに乏しい動きが続く一方、天然ガスをはじめとする鉱物資源関連の輸出の堅調さが輸出全体を押し上げている様子がうかがえる。国・地域別でも、米国向けや欧州向けに下押し圧力が掛かる一方、中国向けやASEANなどアジア新興国向けのほか、日本向けの堅調さが輸出を押し上げる展開が続いている。一方の輸入額は前年同月比+1.7%となり、前月（同▲0.3%）から9ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比は3ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。製造業関連をはじめとする輸出を巡る不透明感を反映して中間財関連の輸入は弱含む動きが続く一方、資本財関連や消費財関連の輸入の堅調さが輸入全体を下支えしている。結果、貿易収支は+124.14億リンギと前月（+129.04億リンギ）からわずかに黒字幅が縮小している。

22日に発表された11月の消費者物価は前年同月比+1.5%となり、前月（同+1.8%）から伸びが鈍化して2021年2月以来となる低い伸びとなっている。前月比も+0.00%と前月（同+0.08%）から上昇ペースが鈍化しており、国際原油価格が頭打ちの動きを強めていることを受けてエネルギー価格は落ち着いた推移が続いているほか、生鮮品を中心とする食料品価格の上昇の動きも一服するなど、生活必需品でインフレ圧力が後退していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+2.0%と前月（同+2.4%）から伸びが鈍化しており、昨年3月以来の低い伸びとなっている。前月比は+0.00%と前月（同+0.00%）から2ヶ月連続の横這いで推移しており、エネルギー価格の安定を受けた輸送コストの低下に加え、国際金融市場における通貨リング安の一服により輸入インフレ圧力が後退していることも重なり、幅広く財価格は落ち着いた推移をみせているほか、サービス物価も落ち着いた動きをみせている。

図4 MY 貿易動向の推移

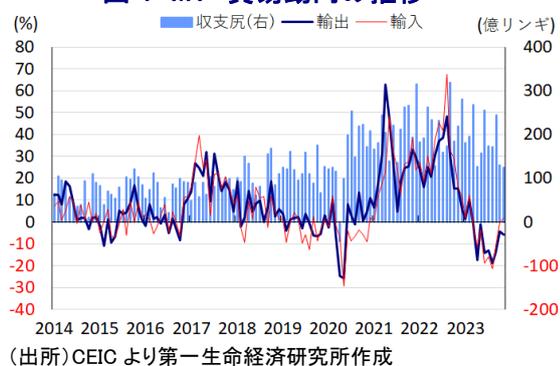


図5 MY インフレ率の推移



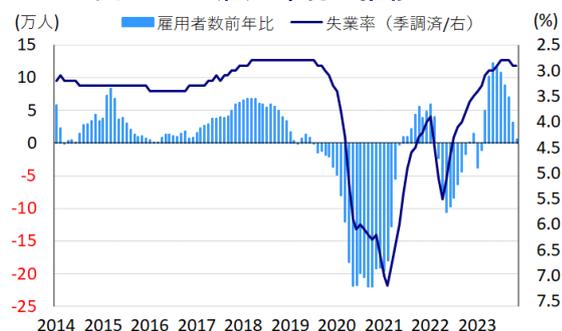
#### [香港]～雇用環境に不透明感がくすぶるなかで雇用環境は頭打ち、幅広くインフレ圧力も後退する展開が続く～

19日に発表された11月の失業率（季調済）は2.9%となり、前月（2.9%）から2ヶ月連続の横這いで推移している。失業者数は前年同月比▲2.8万人と30ヶ月連続で前年を下回る推移が続くも、前月（同▲3.5万人）からそのペースは縮小するなど底打ちの兆候がうかがえる。一方の雇用者数は前年同月比+0.6万人と前月（同+3.2万人）から拡大ペースは鈍化しており、分野別では製造業において引き続き弱含む展開が続く一方、建設業やサービス業を中心に底入れの動きが続いている。ただし、中国本土景気を巡る不透明感の高まりを反映して労働力人口は前年同月比▲2.2万人と前月（同▲0.3万人）からマイナス幅が拡大するなど下振れしており、労働市場への参入意欲が後退している様子が見られる。こうしたことから、当面の労働需給はタイトな環境が続く可能性が高まっている。

21日に発表された11月の消費者物価は前年同月比+2.6%となり、前月（同+2.7%）からわずかに伸びが鈍化している。前月比は▲0.09%と前月（同+1.04%）から6ヶ月ぶりの下落に転じており、国際原油価格の頭打ちの動きを反映してエネルギー価格に下押し圧力が掛かる展開が続いているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も下落しており、生活必需品を中心にインフレ圧力が後退していることが影響している。なお、香港では2007年以降断続的に公営住宅を対象とする賃料減免措置をはじめとする生活支援策が実施されており、その影響を除いたベースでも前年同月比+1.6%と前月（同+1.7%）からわずかに伸びが鈍化している。前月比も+0.00%と前月（同+0.00%）から2ヶ月連続の横這いで推移しており、エネルギー価格の下落を受けた輸送コストの下振れを受けて幅広く財価格に下押し圧力

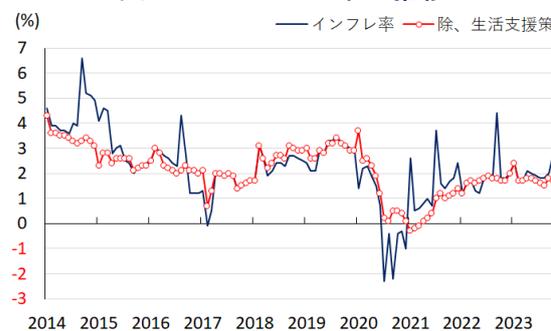
が掛かる動きがみられるほか、景気の不透明感がくすぶるなかでサービス物価にも下押し圧力が掛かるなど、全般的にインフレ圧力が後退している様子が見えてくる。

図6 HK 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図7 HK インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。